



地域を支えてきた豊かな海や文化の継承活動が養う郷土愛と誇り

農林水産大臣賞 岩手県 洋野町立角浜小学校

太平洋をのぞむ小高い山の中腹にあり、岩手県のいちばん北に位置する同校。今年で創立142年目を迎え、長年にわたり地域と連携してさまざまな活動に取り組んできた。1953年頃に開始した、校区にある角浜漁港周辺の磯掃除もそのひとつだ。当初は、地域特産物のウニに悪影響を及ぼすツブ貝の駆除を住民が行ってきたが、その後児童も参加するようになり、現在では海の資源を守る大事な伝統行事として定着。また、1970年代から海岸にペットボトルや発泡スチロールなどのごみが目立つようになったのを機に、漂着ごみ回収も行うようになった。

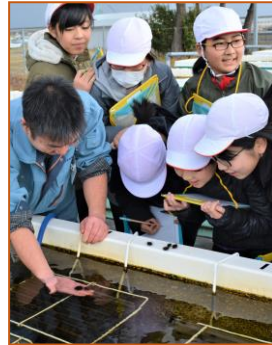
こうした美化活動を通して海洋教育を深めるために欠かせないのが、地域住民の強固な協力体制。種市漁協に勤める専門家に、海の環境保全や地形を生かしたウニ栽培法などを学びながら、児童は地域が抱える問題に向き合い、郷土への愛着や誇りを育んでいる。その成果は発表会で披露し、地域内外に広く発信。いずれも、教科・領域を横断的に関連付けて学習展開しているのが特徴である。

67回を数える今年の磯掃除は、初の試みとして、海とは離れた内陸部の小学校と合同で実施した。交流を図る中で、海と山が循環していることや、海の保全はみんなで協力する必要があることを考える貴重な機会になった。

地域一丸となって環境や多様な文化を守る風土は、数々の郷土芸能の伝承にもつながっている。角浜地区に伝わる町指定無形民俗文化財「駒踊り」は、住民の熱心な指導の下、児童が次世代へ継承。

洋野町角浜地区会長の大村文雄さんは、「角浜小の校訓の一つに、『地域あまねく学校』という言葉がありますが、まさに、この地域全体がPTA会員だという気持ちで住民は児童と接しています。いろんな活動を通じて自分のアイデンティティの基礎を養って欲しいです」と期待を寄せる。

児童数は年々減少し、現在は24名の小規模校だが、地域の思いや願いに応える児童の志は大きく、遙か昔から角浜を支えてきた海のようにキラリと輝いている。



岩手県洋野町立角浜（かどのはま）小学校

学校長：小野寺 教子（おのでら のりこ）

児童数：24名（2019年11月末現在）

住所：岩手県九戸郡洋野町種市 43-101-10

電話：0194-65-4622

アクセス：JR「角の浜」駅よりクルマで約5分

写真上：磯のツブ貝を拾い地域の資源を守って
67年目、2番目：磯掃除の一つ、漂着ごみの回収活動、3番目左：ウニの栽培法を専門家に学ぶ、右：住民の協力を得てたくさん集まるアルミ缶、下：郷土芸能「角浜駒踊り」は地域行事などで披露しながら児童が次世代に継承する